

一般社団法人日本データマネジメント・コンソーシアムの 2021年データマネジメント賞でデータ統合賞を受賞

第一生命保険株式会社(社長：稲垣 精二、以下「第一生命」)は、一般社団法人 日本データマネジメント・コンソーシアム(会長：栗島 聡、以下「JDMC」)から 2021年データマネジメント賞の「データ統合賞」を受賞しました。

第一生命では、新たな付加価値創造や生産性向上に寄与し DX の推進を支えるデータマネジメント基盤「DMAP」(Data Management and Analytics Platform)の構築を進めています。DMAP は、データ収集から抽出、マート化、分析・可視化までの機能を有した基盤です。

この度の「データ統合賞」受賞では、

- ① 個人情報保護などデータセキュリティ・ガバナンスに配慮されたものであること
 - ② 膨大な社内データ、社外データをクラウド上で統合・管理し、最新のデータ分析を可能にしていること
 - ③ 通常は2～3年要するデータマネジメント基盤の構築を約1年で稼働させたこと
- 等が認められたものです。

なお、データ統合賞は、2018年以來3年ぶりの受賞企業となります。

第一生命は、DMAP を活用することでDXを推進し、お客さまの「一生涯のパートナー」として、中核である生命保険事業の効率化・高度化に加え、お客さまやご家族の更なる QOL 向上に努めてまいります。



※JDMC：

様々なデータや情報のマネジメントに関する社会的認知を高め、企業や行政機関などがデータマネジメントを実践するための土壌を創ることを目的に、2011年に「ユーザー企業」と「ベンダ企業」が集って発足した一般社団法人。

※JDMC 報道発表：

2021年データマネジメント賞が決定 (<https://japan-dmc.org/?p=13341>)